

令和6年度 高知市精神障害者地域移行代表者会議 議事録

日時	令和6年7月16日（火） 18:30～19:30
内容	<p>1 開会（省略）</p> <p>2 地域移行支援・地域定着支援の取組について説明（省略）</p> <p>3 高知市精神障害者アウトリーチ支援事業について説明（省略）</p> <p>2, 3に関する質疑応答</p> <p>【会長】 事務局から地域移行と地域定着支援の取組みと、アウトリーチ支援事業についての説明がありました。この件に関しましてご質問やご意見いかがでしょうか。</p> <p>【委員】 地域移行についてはあらましイメージが浮かんできます。今ひとつわからないのは、地域定着支援に関してです。地域定着支援の中身、どのような方がどのような体制で支援を行っているのか具体的に教えてください。</p> <p>【事務局】 地域定着支援の利用は、年5件前後となっています。地域移行支援を利用された方が退院後続けて地域定着支援を利用されている方が多くなっております。1つの事業所の方が対応してくださっており、月に数回の訪問だけでなく24時間相談があった際に対応してくださっております。</p> <p>【委員】 取り組んでくれている事業者が1つということでしたが、1つの事業所で十分ですか。</p> <p>【事務局】 足りているかと言われたら、足りてはいないのかなと思いますが、対応していただいている事業所が現状1つとなっております。</p> <p>【会長】 広げていく必要があるという認識だったと思いますが、数としては開始当初から令和5年度までの地域移行の実績が94人、地域定着が48人、約半数の方が地域定着の利用ということで、現状の数では対応できるのかもしれないですけど、これから数が増えていった時に、なかなか難しいということがありますから、事務局の方も事業所の拡大ができるように取組みを進めていただければと思います。その他ご意見いかがでしょうか。</p> <p>【委員】 アウトリーチ支援事業は4月から始まったばかりなのであまりデータはないかもしれませんが、実績的なところはでしょうか。</p> <p>【事務局】 実施状況を資料16ページの下段に載せておりますが、6月末現在で5人の方に対応しております。今のところ保健所が把握している方を支援対象者として始めているところです。地域包括支援センターから8050世帯の方の相談など、少しずつ相談が増え対応を始めています。</p> <p>【委員】 具体的にどのような支援をしているのか教えてください。</p> <p>【事務局】 まず関係づくりということでアウトリーチ支援チームが訪問に行っています。まだ会っていない方や、家族と話をしながら本人に会うタイミングを待っている方もおり、まだ初期の状況です。</p>

そこから次につなげるサービスをどうしていくか、ということ支援チームの方が話をしながら、保健所も一緒に計画を確認しながら考えています。ゴールは支援につなげるということをめざしています。

【会長】

計画を立てて具体的支援を行うことになっているのですが、支援の計画自体が先ほど答えがあったように、医療につなげるとか、そういうような計画になっているということでしょうか。

【事務局】

その方に必要な支援なので必ずしも医療つなげるというわけではないのですが、支援の目的と一緒に考えて計画を検討してくださっています。

【会長】

それぞれ対象者に応じて、計画を具体的に立ててそれに基づいて支援をしてくださっているということですね。その他、ご質問やご意見はいかがでしょうか。

【委員】

アウトリーチ支援はとていいと思うのですが、病院に委託した効果として保健所にいない職種で支援を提供すると書かれているのですが、どのような職種が関わっているのか教えてもらっていいでしょうか。

【事務局】

資料 14 ページの下段になります。精神保健指定医、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、薬剤師となっております。保健所の精神難病担当係は、保健師と精神保健福祉士になっており、嘱託の精神科医師はいるのですが、それ以外の職種の方にも入っていただいているのはありがたいと思っています。

内容

【委員】

実際に作業療法士、薬剤師が訪問されているということによろしいですか。

【事務局】

精神保健福祉士と薬剤師が訪問に行っているケースがあります。

【委員】

医療に繋がってないということで薬剤師が訪問してどんなことをされているのか教えてください。

【事務局】

医療中断の方に訪問した時は、残薬をみて薬の効果を分かりやすく伝え、内服の促しをしてくれています。通院していた病院に受診する意向がきかれた際には、受診の同行をしてくれています。

【委員】

精神障害者の方にきっちり入っているということでもいいと思うのですが、この事業の対象者は基本的には精神疾患ということですが、認知症の初期集中支援もあると思うのですが、認知症なのか精神疾患なのか分からないような時があって、ファーストタッチではなくて、もともと精神疾患があるような人に関わるということによろしいでしょうか。

【事務局】

対象者は精神疾患が疑われる未受診者と、地域から孤立しているという、基本的には精神障害等ということになっているのですが、相談があった時にこの方たちが対象になるか分からないので、相談者と一緒に訪問に行き、アウトリーチ支援の可否について最初に話し合い決めています。

【委員】

医療センターで見ていると、ドロップアウトされている方がいっぱいいらっしゃるのですが、そういう方も相談したら支援してくれるということですのでよろしいのでしょうか。

【事務局】

はい。まず相談を受けて対応を協議させていただきます。

【会長】

高齢化が進んでいますから、認知症の方も増加していく中で判断がつきがたいところはあると思うのですが、先ほど事務局の説明にあったように地域包括支援センターからの相談ケースもあるということです。地域包括支援センターの職員も加わって、また判断をした上で連携をしていくことが重要になっていくと思います。

【委員】

支援計画というところに話を戻します。本人や家族の希望を伺いながら計画を作成するとありますが、もちろん支援計画は必要ですが、どなたが支援計画を作成するのかここではよくわかりません。家族の立場からの希望としては、意見を聞いてくださると思うのですが、それよりも前にもっとフラットな形で、当事者、家族、そしてアウトリーチに関わっている方々が、同じ1つの平面上で同じ空間で色々話し合いをしながら計画を作っていくということは難しいですかね。

【事務局】

計画作成はアウトリーチ支援チームが行っています。計画を立てるにあたり、話を聞きながら、その人の思いを汲み取りながら、計画を立てていると思っております。支援会議等にその方や家族が参加するのは難しいかもしれませんが、その思いを汲み取ったもの、本人に会えない場合はご家族の方に聞いた内容で計画を作っていくと思います。計画だけが歩いていくような形にはならないように、みんなで確認して計画を作っていければと思います。

【会長】

押し付けるような計画ではなく、当事者、家族の意向を踏まえた計画作りということで、これからは連携を図りながら取り組んでいただけたらと思います。予定時刻が近づいていますので、会次第4の措置入院者の退院後支援について事務局から説明をお願いします。

4 措置入院者の退院後支援について説明（省略）

4 に関する質疑応答

【会長】

措置入院者の退院後支援について事務局から説明がありましたが、退院後支援は徐々に増加をしているという状況ではありますが、この点についてご意見、ご質問はないでしょうか。効率的なやり方等についてはあり方検討会で協議されたということで、今後支援のフロー図等見直しをということですが、そうした検討にあたってこういうことを具体的に考えているということがあればお願いします。

【委員】

その話ではないのですがちょっと気になったのが、退院後支援実施者のその他のところで死亡治療中断等が6件あるのですが死亡ということは結構あるのでしょうか。

【事務局】

昨年は退院後に身体症状が悪化して亡くなった方や入院中に亡くなった方、退院後受診に行かず治療中断した方などで6人となっております。

【委員】

県外に行った患者さんがいたと聞いたのですがどのようになったのか、ずっと入院しているのかそれとも退院して高知に戻ってきたか、教えていただきたいです。

内容

【事務局】

学生で高知の大学に来ていて発症してご家族のいる県に帰った方や、もともと県外に住んでいた方が家族の希望で高知に帰って来たけれど、その家族が高齢となり兄弟のいる県外に戻られた方がいます。他にも、家族全員で転居した方もいます。

【委員】

高知県の精神科病院で引き受けがなく県外に行ったというわけではないのですか。

【事務局】

そういうわけではないです。今回、措置入院の受け入れがなく県外の病院で受け入れてもらったケースはありましたけど、退院後支援をした結果で県外に行ったというのは今説明した内容になります。

【委員】

高知県で受け入れがなく県外の病院で受け入れしてもらったのは1件ですか。

【事務局】

2件になります。

【委員】

そうですね。それは残念です。

【会長】

ZOOM参加の委員から質問が来ております。措置入院の実施支援者数が令和5年度人数が増えており、これに加えて、アウトリーチ支援事業も新たに加わって、さらに市保健所の人員は足りているのか。個々の負担が増えたり、個別の仕事が行き届かなくなったりしないのか対応が気になります。高知市の対応はあるのでしょうか、という質問になります。保健所全体のことになるかもしれませんがお願いします。

【事務局】

まず数の説明をさせていただきます。令和5年度の47人は、令和4年度の年度末に措置入院になった方が多く、その方たちの退院後支援の説明はすぐにはできず年度を跨いで説明をしたので、数が増えております。

【会長】

あと体制の問題について保健所として何かお考えがあればお願いします。

【事務局】

ご指摘のように精神分野では、業務量それから事業の対象人数は非常に増えております。措置自体も増えておりますしそれに伴って、いろんな支援、サービスを提供していきますので、正直言うと、今の体制では非常に厳しいものがあるというふうなことは認識しております。一方市全体でやはり職員の数に対して、どの課もどの部も、人がなかなか充足してないという現実もありますので関係機関の方々のご協力を得て何とか事業をまわしながら、現状を市役所の所管課の方に訴えて、できればもっと人をはっていただくようお願いしていきたくは思っております。

【会長】

ありがとうございました。関係機関の連携や協力というのは当然必要だろうとは思いますが、もう一方で、支援の対象者の数、高齢化等にも伴って増加しているということもありますのでそういったところに対して、この会も含めていろんな機関から声をあげていくことも必要だと思いますので、また体制充実について求めていただけたらと思います。

【委員】

退院後支援は入院中から当事者さん、ドクター等々、話を決めて決めると思いますが、その場合には割とすんなりと話がいけますか。当事者さんの抵抗みたいなものはありませんか。

内容

【事務局】

1回説明をしても何をしてくれるのかということで、拒否される方もいますが、保健所として何度か説明をしていくことと、病院の相談員からも退院後支援の説明をしてくださり、同意をしてくださる方が比較的多いと思うのですが、なかにはどうしても拒否される方もおります。

【会長】

これまでの事務局の説明でも、退院後支援の本人同意をなかなか得られないというのがこれまでの課題であったと思います。同意を得られて支援を実施してきている数自体は、全体的に増えてきつつあると言うことで、先ほど事務局から説明ありました。早い段階から、本人同意が得られるように、医療機関で行っているカンファレンス等に保健所が参加をして、一緒に多職種で同意を取っていく、支援を行っていくということも重要だろうと思いますので、そうした取り組みの中で、さらに充実を図っていただければいいかなと思います。その他いかがでしょうか。

予定をした時間が参りましたので、具体的な課題については、戦略会議、地域いこう会、実務者支援者の会もありますので、そうしたところで本日出た意見等も踏まえて議論を深めていただければと思います。それでは他にないようですので、予定の会次第の意見交換を終了いたします。

5 閉会（省略）

内容